

クレフノン散布によるなし豊水のみつ症状防止について

1. 試験のねらい

本県では関東南部の各県に比べるとなし豊水のみつ症状の発生は少ないが、それでも冷夏年には多発して問題になる。通常みつ症状は収穫後半の過熟果に発生しやすいので、多発年のみつ症状の対策としては、例年より早い果色で収穫して被害を回避するしかない。しかし、年によっては収穫始めの青い果実に発生することもあり、収穫を早めるだけでは十分な対策にはならないので、積極的な防止対策が望まれていた。そこで、カルシウム剤の散布がみつ症の発生を抑制するとの農林省果樹試の報告（昭和62年）に基づいて、クレフノン（炭酸カルシウム）散布によるみつ症状防止効果について、昭和63～平成3年に検討した。

2. 試験方法

豊水の成木を供試し、それぞれの樹に主枝単位で処理区及び無処理区を設け、2反復で行なった。クレフノンの処理濃度は3%で、処理区は5月中旬から6月下旬まで2週間置きに4回散布する区（5～6月散布区）、及び6月中旬から7月下旬まで2週間置きに4回散布する区（6～7月散布区）で、いずれも果実を中心に十分に散布した。なお、供試樹の中にはみつ症状の発生を助長するため、満開後30日間ビニールを被覆して高温にする区を設けた。また、平成3年には現地で例年みつ症状が多発している樹も供試した。

みつ症状の調査は、収穫せずにおいた主枝の片側の果実を満開後140及び150日に一斉に収穫し、障害の程度別の果数を求めたが、みつ症状と同様の条件で発生するす入り症状についても調査した。

3. 試験結果および考察

年次によりみつ症状の発生が異なり、平成元年及び2年は発生が少なくクレフノンの影響は判然としなかった。

露地栽培でのクレフノン散布の影響は表-1、2のとおりで、昭和63年は5～6月の散布で、収穫期前半にあたる満開後140日のみつ及びす入り症状の発生が減少した。また、平成3年の場内では6～7月の、現地では5～6月の散布で満開後150日の障害が減少した。

ビニール被覆栽培の豊水での結果は表-3、4のとおりで、平成2年は5～6月の散布で、平成3年は6～7月の散布でみつ症状が減少した。

以上のことから、クレフノン3%液を5～6月または6～7月に2週間おきに4回散布することにより、豊水のみつ及びす入り症状の発生を軽減できると考えられた。

4. 成果の要約

クレフノン3%液を5～6月または6～7月に2週間おきに4回程度散布することにより、豊水のみつ症状の発生を軽減できると考えられた。散布時期と効果との関係は明確でないが、散布時期が遅いと果実に薬剤が残り外観を損なうので5月中旬～6月下旬の散布が良い。

（担当者 果樹部 金子友昭）

表-1 露地栽培でのクレフノン散布の影響 (昭和63年、2区の平均)

試 験 区	満 開 後 140 日				満 開 後 150 日			
	みつ症発生率%		す入り症発生率%		みつ症発生率%		す入り症発生率%	
	総発生	重症果	総発生	重症果	総発生	重症果	総発生	重症果
ｸﾚﾌﾉﾝ 5～6月	10.1	1.3	18.9	2.5	39.0	19.0	87.0	60.0
無 処 理	25.3	10.1	30.3	13.1	45.4	13.4	97.9	72.2

表-2 露地栽培でのクレフノン散布の影響 (平成3年、2区の平均)

試験 実施 場所	試 験 区	満 開 後 140 日				満 開 後 150 日			
		みつ症発生率%		す入り症発生率%		みつ症発生率%		す入り症発生率%	
		総発生	重症果	総発生	重症果	総発生	重症果	総発生	重症果
場内	ｸﾚﾌﾉﾝ6～7月	13.3	4.4	14.6	5.7	24.8	4.7	19.0	7.1
	無 処 理	25.1	13.2	5.9	2.7	51.2	24.5	32.2	18.2
現地	ｸﾚﾌﾉﾝ5～6月	58.4	49.2	45.9	16.7	30.0	18.3	15.0	6.7
	無 処 理	57.5	46.7	49.2	30.0	46.7	31.7	28.3	20.0

表-3 ビニール被覆栽培でのクレフノン散布の影響 (平成2年、2区の平均)

試 験 区	満 開 後 140 日				満 開 後 150 日			
	みつ症発生率%		す入り症発生率%		みつ症発生率%		す入り症発生率%	
	総発生	重症果	総発生	重症果	総発生	重症果	総発生	重症果
ｸﾚﾌﾉﾝ 5～6月	27.0	13.9	7.7	3.9	33.4	22.3	19.6	11.1
無 処 理	20.9	12.8	8.7	2.3	61.1	33.9	33.0	16.2

表-4 ビニール被覆栽培でのクレフノン散布の影響 (平成3年、2区の平均)

試 験 区	みつ症発生率%		す入り症発生率%	
	総発生	重症果	総発生	重症果
ｸﾚﾌﾉﾝ 6～7月	35.8	4.6	16.8	5.0
無 処 理	37.6	9.9	21.2	9.3